

PIARC 札幌大会

最新技術伝える展示ブース

□ 道土木技術会 □

道舗装事業協会等も協賛

会員企業の技術をPR

北海道土木技術会（高橋陽一会長）の六つの研究委員会（道道路橋、コンクリート、調査、トンネル、道路、土質基礎）は、「北の生活環境を快適にする知恵の結晶」をテーマに、百頁を超える技術紹介パネル・模範の展示を行っている。



同協会は昭和二十九年の設立以来、主として道北寒冷地における

日標に、技術研究・開発を進める六研究委員会に属する会員企業が最新技術をパネル・模型で出展し、紹介している。

併せて、道北道舗装事業協会（中田良孝会長）、道建設コンサルタント協会北海道支部（嶋川健夫支部長）など協賛する四団体は全道七十の「道の駅」の紹介パネル展示とレテオ上映を行っている。

□ 道路工業 □

浅層地盤改良工法等

寒冷地克服技術を紹介

道路工業（札幌、自由経済社長）は、「積雪寒冷地の快適な道路づくり」をテーマに、HDアスファルトコンクリート、浅層地盤改良工法システム等のパネル展示を行っている。

同社は、昭和二十四年の創立以来、本道の道路建設のリーダーとして、人々に喜ばせようとする道を築きつづけるに専心。寒冷地・北海道にふさわしい施工方法を舗装

面化剤の添加配合により改良し、土の安定性と耐久性を増大させる工法で、路盤・路床・路体の強化等に有効な技術として注目されている。

このほか、強性系舗装「メロウ・ウェイ」、高耐久系常温補修材「オサムクン」など、いずれも積

□ 理研興業 □

高耐食性めっき防雪・防風板
全自動忍び返し付吹止柵

防雪・防風対策を提案

理研興業（小樽、柴田三三社長）は、「厳格な条件にさらされる地域の防雪・防風対策」をテーマに、高耐食性めっき防雪・防風板と全自動忍び返し付吹止柵を展示している。

高耐食性は二一％のアルミニウム、三％のマグネシウムおよび微量のシリコンから形成された新しいタイプのめっき鋼板で、高い防錆性を誇るもの。従来の亜鉛鉄板等と比較しても格段な耐食性を有している。防風耐荷めっきの二五倍以上、アルミニウム合金めっき



□ 流雪溝工業会 □

ミニチュア流雪溝を展示

世界唯一の技術に関心

柳旭タンケ、エムテック、高尾エンクリート柳南千六社で構成する流雪溝工業会（山下弘会長）は、十分の一サイズのミニチュア流雪溝を展示。雪に似せたプラスチック製の粉を使った投雪作業の実演などを進めて、世界で唯一、日本だけが持っている流



雪溝の技術をアピールし、来場者の関心を集めている。

同会は、雪国の快適な生活環境の利便に向け、全道各地で流雪溝の設置に力を注ぎ、すでに数多くの納入実績を有している。今回の出展は、国内外に流雪溝の役割や同会の取り組み等、様々な情報を発信するのが目的で、テーマは「北国の豊かさを創造する」。



同会のブースでは、十分の一サイズのプラスチック製ミニチュア流雪溝（長さ二・四メートル、投雪口三カ所）の展示・実演をメインに、パネル展示や、製品紹介・納入実績・敷設状況・設計条件・製品組立図など写真を含んだパネルを作成したCD-ROMの配布を行い、冬期道の安全・快適な道路空間確保に有効な日本生まれのシステム「流雪溝」を、広く紹介していた。

の五〜八倍）。また、従来の同様、世に一切断・孔あけ等の加工が可能ならば、少量のめっき付雪で済むが、加工精度の向上、大幅な後処理削減による工期短縮・経費節約を実現した。主に重工業地帯、沿岸部で威力を発揮し、厳しい気象条件をもつ路線の多い地域では、大きな効果が得られるものと期待も大きい。

全自動は、フランスパン（丸）のユニットを組み立てる作業に上り、切替装置を付した吹止柵として、同社が特許取得した。僻地、通行止めになるような悪条件下での作業も可能となり、設置により通年通行の実現が図られる。現在は試作段階だが、同社では今年中に試験的設置を行い、データを集積し来シーズンの販促に間に合わせる考えだ。